

# 「死生」に関わる言語表現を通して見る 「死生観」の文化的バリエーション

—日本語と韓国語を中心に—

陳南澤

## 1. はじめに

言語は文化と密接に関わっており、文化の様々な面が言語に反映されている。特に「死生」を含む生命活動に関する文化及び意識は言語に深く刻み込まれており、言語によって生命活動に関わる言葉の用法・使用範囲・慣用化などに違いがみられる。本稿は韓国語と日本語に現れる「死生」に関わる言語表現、身体名詞や胎児に関わる表現などを通して両言語に反映されている「死生観」の文化的バリエーションを見ることを目的とする。両言語は互いに影響を与え合ってきたゆえに共通する表現も多いが、それぞれの言語特有の表現も見られる。これらの言語表現は両文化の共通性と特有性を表している可能性がある。

## 2. 「死」に関する表現

「死」をどう受け止めるかの問題は、東洋と西洋を問わず、古来からの人類の根本的なテーマである。本節では「死ぬ」を表す言語表現を通して両言語に反映されている「死生観」の文化的バリエーションを考察する。

### 2.1. 「死ぬ」を表す婉曲表現

言語において「死ぬ」を表す表現には、例えば日本語と韓国語における「死ぬ」「죽다(jukda)<sup>1)</sup>」のような基本表現のほかにも、多くの婉曲表現がみられる。これらの婉曲表現はその文化における来世観・宗教観などを反映して

おり、その文化の特徴を表しているといえよう。本節では「死ぬ」における婉曲表現を中心に分析を行う。

「死ぬ」を表す婉曲表現として、日本語では「なくなる」が、韓国語では「돌아가다 doragada (戻っていく)」が最もよく使われている<sup>2)</sup>。両言語におけるこれらの婉曲表現の違いは両文化において「死ぬ」に対する観念を象徴する面があると考えられる。日本語の「なくなる」が「此の世」に中心をおく表現であるのに対し、韓国語の「돌아가다(戻っていく)」の場合は「彼の世」に中心をおく表現であると解される。

なお両言語には、「なくなる」「돌아가다 doragada」のほかにも、仏教に由来すると思われる、「死ぬ」を表す多くの表現がみられる。これらの表現を、両言語に共通するものと一方だけに見られるものに分けて提示する<sup>3)</sup>。

### 2.1.1. 日本語の特有の表現

亡くなる、(-を)亡くする、空しくなる、事切れる、  
朽ちる、朽ち果てる、果てる、  
消え入る、絶え入る、身罷る、骨に成る、  
お隠れになる、死没する、物故する、天上する  
亡き数に入る、死出の旅に上る、冥土へ旅立つ、  
くたばる・ごねる(死ぬを乱暴にいう語)  
致命(の時をまつ)

### 2.1.2. 韓国語の特有の表現

돌아가(시)다 doragasida (戻っていく)  
殞命 하다 hada・作故 하다・逝世 하다：死ぬの尊敬語  
潜寐 하다  
仙馭 하다・晏駕 하다・昇遐 하다・登遐 하다：崩御するの意  
陰府・저승 jeoseung：あの世

### 2.1.3. 日本語と韓国語に共通する表現

絶命する：絶命 하다、  
息が絶える：(숨이)끊어지다 kkeuneojida

息を引き取る：(숨을)거두다 geoduda

絶息する：絶息 하다

(永遠に) 眠る：(영원히)잠들다 jamdeulda、 永眠する：永眠 하다、

目を瞑る：(눈을)감다 gamda、 瞑目する：瞑目하다、

世を去る：(세상을)떠나다 tteonada、 他界する：他界하다

あの世に行く：저세상으로 가다 jeosesang-euro gada

永逝する：永逝하다、 長逝する：長逝하다

先立つ：먼저가다 meonjeo gada

死去する：死去하다、

此の世の別れ：세상을 下直하다

没する：没하다、 昇天する：昇天하다、

(-を) 失う：잃다 ilta

(刑場の露と) 消える：(형장의 이슬로) 사라지다 sarajida

地に成る：흙으로 돌아가다 heulgeuro doragada (戻っていく)

幽明境を異にする：幽明을 달리하다 dallihada

帰らぬ旅、 不帰の客となる、

黄泉の客となる：黄泉으로 가다 gada (行く)

#### <仏教の死を表す表現>

往生する：往生하다 (cf.「大往生する」は韓国語では使われていない)

成仏する：成仏하다、 入寂する：入寂하다、 入滅する：入滅하다、

寂滅する：寂滅하다、 遷化する：遷化하다、

涅槃に入る：涅槃(열반)에 들다 deulda、

滅度、 仏滅、

冥途、 冥境、 冥界、 冥府、 冥土、 黄泉

鬼籍に入る：鬼籍

<王・天皇などの死を表す表現>

崩御する：崩御 **하다**、 登仙する：登仙 **하다**、

2.1.4. 以上の例から分かるように韓国語と日本語における「死ぬ」を表す表現には共通するものが多い。両言語における生理的現象（息が絶える・眠るなど）による表現は「死ぬ」という現象にみられる普遍的な面を示しているが、仏教の表現は両国の文化における仏教の影響を示している。一方「なくなる」のように対応する韓国語の表現（この場合は「**없어지다** eopseojida」）が「死ぬ」の意味に用いられない場合もある。このように、婉曲表現には「死」の認識の文化的差異が現れている可能性がある。

## 2.2. 「死ぬ」と「죽다」の使用範囲

本節では、両言語において「死ぬ」を表す表現のうち最も基本的である「死ぬ・죽다」の使用範囲を対比する。この分析により、両言語においてどのような対象・現象を「死ぬ・죽다」と認識しているかが明らかになる。まず、「死ぬ」と「죽다」の辞書での説明を概略し、<表-1>ではどのような主語に「死ぬ・죽다」が用いられるかをみる（表における「○」は使われることを、「×」は使われないことを、「△」は自然ではないが使うこともできることを示す（以下同様）。

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1) 「死ぬ」の用法     | 2) 「죽다」の用法        |
| a) 命がなくなる      | a) 命が絶える          |
| b) 活気や生彩がなくなる。 | b) 機械や動いていたものが止まる |
|                | c) 火が消される         |
|                | d) 氣勢・生氣などがなくなる   |

<表1>で「死ぬ・죽다」の使用範囲を対照したが、この表に現れる「死ぬ・죽다」の特徴をまとめると次のようになる。

- 1) 日本語では動物・菌類・ビールスなどには「死ぬ」を使うが、植物には使にくい。これに比べて韓国語では植物にも「죽다」が使える。
- 2) 受精卵・精子・卵子などの場合、韓国語では「죽다」が使えるが、日本語

表1 「死ぬ」と「죽다」の使用範囲

	韓国語	日本語
	죽다 jugda	死ぬ
사람이 sarami / 人が	○	○
개가 gaega / 犬が	○	○
개구리가 gaeguriga / 蛙が	○	○
금붕어가 geumbung-eoga / 金魚が	○	○
細胞가 / 細胞が	○	○
細菌이 / ばい菌が	○	○
바이러스가 baireoseuga / ビール스가	○	○
나무가 namuga / 木が	○	△
꽃이 kkochi / 花が	○	△
잔디가 jandiga / 芝が	○	○
새알이 saeari / 鳥の卵が	△	△
태児가 / 胎児が	○	○
受精卵이 / 受精卵が	○	△
精子가 / 精子が	○	△
卵子가 / 卵子が	○	△
胞子가 / 胞子が	△	△
사과가 sagwaga / りんごが	×	×
時計가 / 時計が	○	× (止まる)
팽이가 paeng-iga / 独楽が	○	× (止まる)
난로불이 nalloburi / 火鉢が	○	× (消える)
기가 giga / 気が	○	× (気が引ける)
숲이 supi / 森が	○	○
땅이 ttang-i / 地が	○	○
바다가 badaga / 海が	○	○
(바둑) 돌이 dori / 囲碁の石が	○	○
走者가 / 野球の走者が	○	○ (アウトになる)
그림이 geurimi / 絵が	×	○: 死んでいる
마을이 maeuri / 町が	×	○: 死んでいる
文章이 / 文章が	×	○: 死んでいる
資金이 / 資金が	×	○: 死んでいる
心臓이 / 心臓が	×	×

では「死ぬ」を使うのに抵抗感がある。

- 3) 韓国語では時計・独楽・火鉢など動いている或いは活動しているものが止まる場合、「죽다」が使える。なお、日本語では絵・町・資金などに「死んでいる」が使える。このことは韓国語の場合は「運動性」に、日本語の場合は「その事物の生命とするもの」に焦点を当てると解される。
- 4) 両言語とも「自然環境（川・森・海など）が、生物の住めないような状態になる」という意味で「死ぬ・죽다」を使う。

表2 「殺す」と「죽이다」の使用範囲

	韓国語	日本語
	죽이다 jugida	殺す
사람을 saram-eul / 人を	○	○
개를 gaereul / 犬を	○	○
개구리를 gaegurireul / 蛙を	○	○
금붕어를 geumbung-eoreul / 金魚を	○	○
나무를 namureul / 木を	○	×
꽃을 kkocheul / 花を	○	×
잔디를 jandireul / 芝を	○	×
細胞를 / 細胞を	○	○
細菌을 / ばい菌を	○	○
바이러스를 baireoseureul / ビールスを	○	○
태아를 / 胎児を	○	○
受精卵을 / 受精卵を	○	△
精子를 / 精子を	○	△
卵子를 / 卵子を	○	△
胞子를 / 胞子を	△	×
숨을 sumeul / 息を	○	△
하품을 hapumeul / あくびを	×	○
웃음을 usumeul / 笑いを	×	○
냄새를 naensaereul / 臭みを	×	○
맛을 maseul / 味を	×	○
感情을 / 感情を	○	○
기를 / 気を	○	×
난로불을 nallobureul / 火鉢を	○	× (消す)

## 2.3. 「殺す」と「죽이다jugida」の使用範囲

本節では日本語と韓国語における「殺す・죽이다」の使用範囲を概観する。「殺す」を表す言語表現として、日本語では「死ぬ」とは異なる語形「ころす」が使われるのに対し、韓国語では「죽다」からの派生形である「죽이다」が使われている。参考までに、日本語では「生む」に対して派生形「生まれる」が使われ、韓国語では「낳다nata（生む）」「태어나다tae-eonada（生まれる）」のように異なる語形が使われている。「殺す・jugida」がどのような主語とともに用いられるかを示したのが<表2>である。そこに現れる特徴をまとめると次のようになる。

- 1) 日本語では動物・菌類・ウイルスなどには「殺す」を使うが、植物にはかなり使いにくい。これに比べて韓国語では植物にも「죽이다」が使われる。
- 2) 受精卵・精子・卵子などの場合、韓国語では「죽이다」が使われるが、日本語では「殺す」を使うのに抵抗感がある。
- 3) 日本語では笑い・あくび・臭み・味などに「殺す」が使われる。
- 4) 韓国語では気・火鉢に「죽이다」が使われる。

## 3. 胎児・臓器・身体名詞の扱いについて

本節では胎児・臓器・身体名詞などの扱いを概観する。これらの名詞の扱いにも言語による違いがみられる。

### 3.1. 胎児に関わる表現

#### 3.1.1. 「妊娠する」の言語表現

次の例から分かるように、両言語とも類似する表現を用いて「妊娠する」を表している。

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 1) 日本語  | 2) 韓国語                           |
| 子供ができる  | (아기가)생기다 saenggida (できる・生ずる)     |
| みごもる・宿す | (아기가)들어서다 deureoseoda (はいる・たちいる) |
| はらむ(孕む) | (아기를)가지다 gajida (もつ)             |
|         | (아기를)배다 baeda                    |

### 3.1.2. 「墮胎する」の言語表現

次の例は「墮胎する」を表す表現である。

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 1) 日本語 | 2) 韓国語           |
| 墮胎する   | 落胎 하다            |
| おろす    | 지우다 jiuda (けす)   |
|        | 떼다 tteda (外す・とる) |

日本語で使われる「おろす」の基本的な意味は「上から下へだんだんに移す」であるが、「体内から下へ出す」という意味から「墮胎する」の意を持つと思われる。この用法は「回虫をおろす」などに使われる。韓国語では「墮胎」は使われず、その代わりに「落胎」が使われている点が目を引く。

一方、韓国語の「떼다 tteda」は「くっついていたものを離れるようにする」という意味であるが、この表現は体の一部分になっていた胎児を「分離する」という表現であろう。なお、「지우다 jiuda」は「存在していたものを無くす・消す」という意味であるが、存在する胎児をいなくなるようにするという意味であろう。

参考までに「流産する」に対して、韓国語では「流産 하다」の他に「(애가)떨어지다 tteoreojida (おちる)」をよく使う。

### 3.2. 臓器移植に関わる表現

臓器移植に関わる表現はごく最近の用語であるが、両言語では次のような表現が見られる。日本語では主に「提供する」を用いるが、「あげる」も（違和感はあるが）用いられる。韓国語でも日本語とほぼ同様の表現を用いる。

- |         |                        |
|---------|------------------------|
| 1) 日本語  | 2) 韓国語                 |
| 提供する    | 提供 하다 (提供する)           |
| あげる (?) | 주다 juda (わたす・あたえる・あげる) |
| 提供される   | 提供 되다 dweda            |
| もらう     | 받다 batta (もらう)         |



### 3.3. 身体の一部を切り取る表現

<表3>は、「きる／とる」と「잘라내다 jallanaeda (切り出す) / 떼어내다 tteonaeda (取り出す)」とがそれぞれどのような身体部分とともに用いられるかを示したものである。まず日本語の例を見ると、足・指・首など外部の器官は「きる」だけを、腎臓・肝臓・肺・子宮など内臓は「とる」だけをを用いて表現される傾向が見られる。ただし、胸・胃・直腸などは両方

表3 身体の一部を切り取る表現

	日本語		韓国語	
	きる	とる	잘라내다 (切り出す)	떼어내다 (取り出す)
肺	×	○	○	○
腎臓	×	○	○	○
肝臓	×	○	○	○
子宮	×	○	△	○
卵巣	×	○	△	○
角膜	×	○	×	○
直腸	△	○	○	○
食道	△	○	○	△
胃	○	○	○	○
盲腸	○	○	○	○
前立腺	○	○	○	△
扁桃腺	○	○	○	△
乳房・가슴 gaseum/ 乳房・胸	○	○	○	△
목 mok/首	○	×	△	△
귀 gwi/耳	○	×	○	×
코 ko/鼻	△	×	○	△
혀 hyeo/舌	○	×	○	×
발 bal/足	○	×	○	×
손 son/手	○	×	○	×
손가락 son-garak/指	○	×	○	×
손톱 sontop/爪	○	×	△	△
발톱 baltop/足の爪	○	×	△	△
수염 suyeom/ひげ	△	×	△	×
혹 hok/こぶ	×	○	○	○
腫瘍	○	○	○	○
患部	○	×	○	△
고름 goreum/膿	×	○	×	×

で表現できる。

一方、韓国語では「**잘라내다** (切り出す)」が基本表現として広く用いられ、「**떼어내다** (取り出す)」も内部の器官を中心に用いられる。

#### 4. 終わりに

以上、本稿では日本語と韓国語における「生命活動」に関わる言語表現の類似点と相違点を概観した。言語表現の用法と分布のデータは「死生観」の研究における基礎資料になり、この研究は、今後行われるはずの他の言語・方言の調査においても基礎資料になるものと期待される。

#### <参考文献>

- 大野晋・浜西正人 (1981) 『類語新辞典』、角川書店  
松村明 (1995) 『大辞林第二版』、三省堂  
国立国語研究院 (2000) 「**한글로마자표기법**(ハングルローマ字表記法)」  
**한글학회**(ハングル学会) (1992) 『우리말큰사전』、語文閣

#### 注

- 1) 韓国語のローマ字表記法は(韓国)国立国語研究院(2000)に従う。
- 2) 例えば、中国語では「なくなる(没了)」が、モンゴル語では「歳がなくなる(使い尽すの意)」が、グルジア語では「(状態が)かわる」が、トルコ語では「うしなう・(我々から)はなれる」が、アムハラ語では「やすむ」が婉曲表現として用いられている。
- 3) 日本語の表現は大野晋他(1981)と松村明(1995)を、韓国語の表現は **한글학회** (ハングル学会) (1992) を参照した。

(ジム・ナムテク 研究拠点形成特任研究員)

---

# A Study of Cultural Variations through the Analysis of Linguistic Expressions of Life and Death in Japanese and Korean

Namtaek Jin

---

Since language is closely connected with culture, various aspects of culture are reflected in language. Thought on life and death is also deeply engraved on language, and every language substantiates the unique view of life and death of the speech community. This paper aims at giving a preliminary analysis of cultural variation in the view of life and death between Japanese and Korean speech communities, by comparing linguistic expressions concerning life, death, the human body, embryos, etc. Special attention is given to euphemisms and the range of usage.

For example, euphemisms for 'to die' show contrast between these two languages: *nakunaru*, a Japanese euphemism, originally meaning 'to be lost', suggests a viewpoint in this world, while the Korean counterpart, *doragasida* 'to go back', is an expression with the focus on the afterlife. Such difference may reflect different views of life and death between the two communities.